吉岡町議会だより
No.111
年4回発行
●発行　吉岡町議会
●責任者　議長　岸　祐次
●編集　議会広報常任委員会
☎群馬県北群馬郡吉岡町大字下野田560
0279-54-3111

キラリよしおか古語り（いにしえ）④

形がいをとどめる猪土手

今もなお猪土手（しどて）残る小倉山

榛名山に向かい、上小倉の人家を過ぎ、ブドウ畑にかかると、左に 6 万㌧の水をたたえた明治用水貯水池がある。そこを渋川方面へ右折して行くと、右手道路に沿って、土堤が見えてくる。この土堤が吉岡郷土かるたに詠まれた、小倉山の猪土手である。

長い年月を経た現在、残念ながら大方は崩れ落ち、わずかに形がいをとどめるのみである。築かれた当初は、おそらく 2㍍半の高さを盛って、山林地帯にすむイノシシやオオカミなどの侵入を防いだといわれているが、いつ頃、誰によって作られ、何が起こったかを伝えるものはない。ただ、食を求めた獣が、里へ下りて民家に危害を加えることを案じて、小倉の人たちが土堤上に垣根を築いたことが、明治末期ころまで続いたという。土地の人たちは、土堤の下手である、上小倉集落側を「土堤内（どてうち）」と言い親しんでいる。

この猪土手通りは、榛東・箕郷方面から吉岡町を過ぎ、北方はるか渋川の方まで続いていたといわれる。中世戦国の昔、上杉方白井城と箕輪城との重要な連絡路であったのだという。

誰によってつくられたかわからない時代より、人々を脅かす獣に対抗すべく知恵をだし、築き上げた猪土手。何百年の年月を経て、今現在、また農作物を荒らす有害鳥獣に我々は悩まされている。自然との闘いは繰り返されるのであろうが、その調和を図り、共生していく策はないものだろうか。榛名山を仰ぎ見ながら、その尾根に広がる人と獣との闘いに思いをはせる。

参考文献：「吉岡村誌」

編集後記

厳しい冬の寒風にさらされて、じっと耐え抜いて来た木々の蕾が一斉に咲き誇り、この4月は希望に満ちて入学・就職を心待ちにしている若者達の背中を優しくつつむ。そんな言葉が似合う季節になりました。

まちの予算も昨年度に比べ大幅増になり、町長の施政方針の中でも明治小学校の増築・駒寄幼稚園の改築助成・学童クラブの新築など、新規事業もまちの多くの子育て世代に重きを置いた明るい政策に希望が持てます。きっと大きな実を結んでくれると確信しております。

春は職場の異動の季節です。青木書記が町民生活課に異動しました。大変お世話になりました。配属先におかれましても益々ご活躍されることを期待致します。

（竹内　憲明）

編集委員

委員長　坂田　一広
副委員長　金谷　康弘
委員　村越　哲夫
竹内　憲明
柴﨑徳一郎
大林　裕子
富岡　大志